

# 第1章

組み立ててブレッドボードに挿したらすぐ試せる！  
単体でも、他のコンピュータと組み合わせても使える

## 本書付属基板の使い方

桑野 雅彦 Masahiko Kuwano

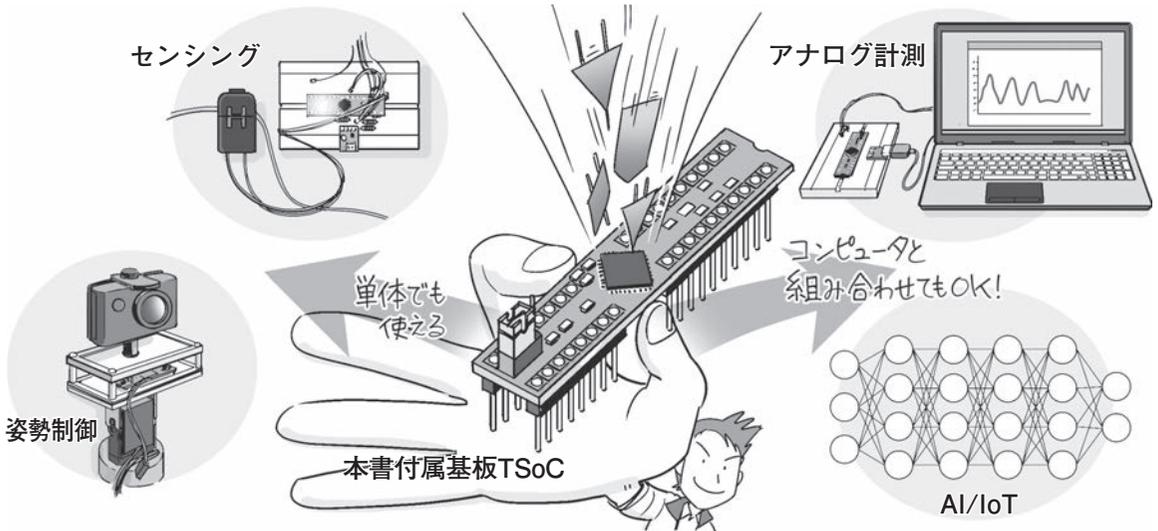
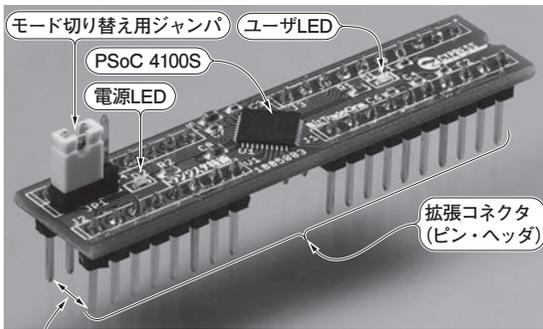


図1 本書に付属する PSoC 基板 TSoC



ピン間は300milなのでブレッドボードに挿さる

写真1 本書付属の PSoC 基板「TSoC」を組み立てた PSoC 4100S (インフィニオン テクノロジーズ) を搭載する。ブートローダが書き込まれているので UART 経由で回路やプログラムの書き込みができる。ピン間は 300 mil (2.54 mm × 3) なので、幅狭の DIP IC のように使える

### ● 遊び方

#### ▶ わずか10分で完成

本書には、PSoC 搭載基板「TSoC」(写真1)が付いています。

図1に示すのは TSoC の応用事例です。付属基板には、PSoC 4100S (インフィニオン テクノロジーズ) が

実装されていて、数点の部品を用意すれば10分で組み立てられます。写真2に示すのは、搭載用の部品です。2.54 mm ピッチの40ピン×1列ピン・ヘッダと、ジャンパ・ピンを1つずつ用意するだけです。搭載用の部品は全国の電子パーツ・ショップで購入できます。

● パソコンとつなげば、いつでもどこでも電子工作  
PSoC は、パソコン内で電子工作できる IC です。パソコンの画面上で設計した回路がそのまま IC に作り込まれて、動き出します。

お出かけ先でアイデアを思いついたら、すぐにノート・パソコンを起動して回路を組みます。自宅に戻ったら、付属基板をブレッドボードに組んで電源を入れるだけです。

付属基板には、「ブートローダ」というプログラムが書き込んであるので、専用のライターは不要です。

そして1点だけお詫びがあります。USBブリッジIC を搭載していれば、パソコン直結で回路を書き換えられるのですが、付属基板には PSoC 4100S しかありません。そのため、「USB-UART 変換アダプタ」というものを買ってもらわないと楽しむことができません。

本書では、USB-UART 変換アダプタに AE-FT234X